

贍すうしふ。序時も安座せざりふ。今僕偉小安用たまバ。酒宴成程や一快樂みて。疲勞と補せんとかりふれば。先黨家には愉快く。釋散せんと存ぞるふ。却く左や右沉思煩ひ。づく心残痛むる。案外をみをざし。榮侮へ秀吉が後居あら残主が許り。起てりふ。誰ふう憚るとて徳あらん。至益の諫諫に苦を蒙る。たゞさき思癡の如きあり。吾閉門へかどゆま。近日かく御宿あらん。及び軍事ふ聞らば。勿く暫時の遊樂をも。一杯の獨酌とも。其じづきことたりて。只此暇小意の隨く。遊樂せんと欲むふれバ。遠費意残老黨ま。まうし。听よと言弃く。猶も詠舞しき興トたふぞ。令正も做爲にすうあく。其度を退き。浪の野原成折れ。那このよりと門譚ま。各興も醒え。愁悶ゆ。ことをとく。かくも。いくひせんと諒議しけ。代。令正要時工ませらき。これハ自妾や他家達が。諒えども益へあじ。竹中半吉湯重治ハ。平日小葉旅の徒すうごを放へ。人かど。竹中大人一相諒。しく。諒えどもよせら。とつまひ。淺野長政毛代拘く足へ宣したかがし。しも。早く竹中セ諒らんと。浅野行吉清木下小一郎。森井又左郎。中村孫助。加藤福清。片桐よど。金田黨。竹中ケ用唐小判。對面す。主人の始終を呴詠。足下もく諒言。竹窖えを玉と。裏へりふぞ。重治莞尔とうち笑ひ。足下俳せ。辛配道理あり。吾快送緯を詔ほきども。諒むべきことをひがゆゑ。その承認くと。承認。とまうせば。浅野翻へ。諒む爲にこそ。と写ふ。諒えども主人ふハ。不詮听寃玉とねことをやつす。諒ふば。